

施策マネジメントシート1(20年度目標達成度評価)

作成日 平成 21 年 6 月 23 日
更新日 平成 21 年 9 月 9 日

総合計画体系	政策No.	4	政策名	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり	施策統括課	生涯学習課	施策統括課長名	高木 敏明
	施策No.	20	施策名	生涯学習の推進	関係課	学校教育課、人権啓発教育課		

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等
・市民
・市外からの通勤・通学者

② 意図(対象がどのような状態になれば良いのか)
生涯に亘って目標・目的を持ち、学習やスポーツを行っている

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) * 数字は記入しない

名称	単位
A 人口	人
B 市外からの通勤・通学者	人
C	

④ 成果指標(意図の達成度を表す指標) * 数字は記入しない

名称	単位
A 目標・目的を持って実際に学習やスポーツを行っている人の割合	%
B	
C	
D	
E	
F	

成果指標の測定企画(実際にどのように実績値を把握するか)
設問:「あなたは目標・目的を持って実際に学習やスポーツを行っていますか?」
選択肢:①週に2回以上行っている、②週に1回行っている、③月に2、3回行っている
④月に1回行っている ⑤ほとんど行っていない

※「学習やスポーツ」とは、学校や地域社会の中で行われる組織的な学習活動だけでなく、個人的なスポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動なども含みます。
(目標・目的を持って実際に学習やスポーツを行っている人の割合=①~③を回答した人/全回答者数)

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
対象指標	A 人	見込み値				53,909	54,518	55,124	55,732	
		実績値	52,085	52,695	53,304	54,047	54,407			
	B 人	見込み値			14,951	15,756	16,561	17,366	18,171	
		実績値	(H7)6,094	(H12)10,121	(H17)11,575	(H17)11,575	(H17)11,575			
成果指標	A %	見込み値				41.0	41.3	41.6	42.0	
		実績値	未把握	未把握	40.8	42.5	40.0			
	B	見込み値								
		実績値								
	C	見込み値								
		実績値								
事務事業数					71	72	73	72	72	
施策コスト	事業費	国庫支出金	千円			0	509	494	1,169	1,028
		都道府県支出金	千円			0	0	0	0	247
		地方債	千円			3,458	4,800	0	0	0
		その他	千円			20,734	18,112	20,100	40,192	37,815
		繰入金	千円			1,296	865	1,243	0	0
		一般財源	千円			320,016	313,235	287,104	259,750	271,004
	事業費計(A)		千円	0	0	345,504	337,521	308,941	301,111	310,094
	(A)のうち指定経費		千円			8,246	35,612	36,208	32,779	36,208
	(A)のうち時間外、特殊勤務手当		千円			772	787	814	693	814
	人件費	延べ業務時間	時間			23,697	23,733	24,100	20,157	20,121
人件費計(B)		千円			94,788	94,931	96,400	80,627	80,484	
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	440,292	432,452	405,341	381,738	390,578	

基本計画期間における施策の目標設定とその根拠(水準の理由と前提条件)

「A」の目標、目的を持って実際に学習やスポーツを行っている人の割合については、高齢化が進み、余暇を利用して学習やスポーツに親しんだり、ボランティア活動に参加する人が増えると予想されるが、生涯学習にあまり取り組んでいない若い世代の人口の増加を加味すると、22年度までは18年度の水準の40.8%と設定した。
目標値は、高齢化が進み、余暇を利用して学習やスポーツに親しんだり、ボランティア活動に参加する人が増えることに加えて、18年度以降に新春マラソン大会の実施、市民大学の開設、地域型スポーツクラブの拡充に取り組むなどにより若い世代が参加しやすい環境づくりに重点的に取り組むことで、平成22年度では、1.2%増加し、42.0%になると設定した。

基本計画期間における施策の方針

生きがいのある人生を送るため市民自ら生涯学習に取り組みやすい環境づくりにつとめる。

全庁横断課題『子育て支援日本一のまちづくり』との連携

- ・関連性あり
- ・子どもを地域で育てる学習環境づくり(総合型地域スポーツクラブ、地域自治会等)

施策マネジメントシート2(20年度目標達成度評価)

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

- ① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)
- ア)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)
- ・住民は、市主催又は地域主催等の色々な事業に参加する。学習意欲や運動意欲を持ち、自主的に取り組む。
 - ・地域、団体は、地域でのレクリエーションや体育活動、各種講座を開催する。
-
- イ)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
- ・各種スポーツ大会の開催及び支援
 - ・各種講座やニュースポーツの紹介など、生涯学習のきっかけづくりとしての事業の実施
 - ・各種施設(公民館、図書館、体育館、グラウンド等)の管理・運営
 - ・リーダーの育成
- ② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?(平成22年度を見越して)
- ・高齢化が進み、余暇を利用して学習やスポーツに親しんだり、ボランティア活動に参加する人が増えると予想される。
 - ・施設の老朽化が進み、維持管理費の増加が予想される。
 - ・H21年度に生涯学習推進会議を開き、「生涯学習のまち(都市)宣言」についての審議を進め、H22年度で「生涯学習のまち(都市)宣言」を行う予定である。
- ③ この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
- ・住民から、各種講座の内容拡充の要望が多い。
 - ・予約管理が土・日・祝日でも出来て利用しやすいとの声が寄せられている。
 - ・市民ワークショップで「市内の各施設(体育館・ホール等)が充実していて利用しやすい」「住民側の自主的な生涯学習がさかん」などの意見があった。
 - ・議会から「図書館を子どもの居場所づくりとして夏休みでの自主学習ができるようにして欲しい」との要望があがっている。
 - ・要望を受け、H21年度において、緊急雇用対策事業(国)補助金を活用し、生涯学習施設研修室等で利用が無い時間帯を解放し子ども等の自主学習の場を設置する予定である。

4 施策の評価

- ① 施策の目標達成度(20年度目標と実績との比較)
- | | |
|---|---|
| <p>A → Δ 【 目標・目的を持って実際に学習やスポーツを行っている人の割合 】</p> <p style="padding-left: 20px;">: 目標値41.3%に対し実績値40.0%であり、達成度は96.9%であった。</p> <p>B → 【 】</p> <p>C → 【 】</p> <p>D → 【 】</p> <p>E → 【 】</p> <p>F → 【 】</p> <p style="text-align: center;">※○:目標達成 △:目標をほぼ達成(-5%程度) ×:目標を未達成</p> | <p>※左記の背景として考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)</p> <p>市民アンケートによる数値であり、世界同時不況等社会状況の変化が影響し生涯学習の取り組みにも影響が現れ施策目標が達成できなかった。</p> <p>また、人口が転入等により0.7%増加しており、この部分について、アンケート結果のマイナス要因になっていると考えられる。</p> |
|---|---|
- ② 施策の振り返り(施策の方針、全庁横断課題との連携の達成度等)
- ・予定された事務事業による学習及びスポーツの啓発、機会の提供は達成した。また、オリンピック柔道2連覇の内柴選手関連行事では市長部局と連携して開催し、また、3月開催の子どもフェスティバルでは竹迫初市と同日開催で両企画とも盛況に行うことが出来た。
 - ・事務事業貢献度評価の結果では、平成20年度施策の成果を向上させるために最も貢献した事務事業として、スポーツ体験教室開催事業、生涯学習出前講座事業、トレーニングルームインストラクター配置事業、図書館蔵書整備事業、図書館まつり実施事業、ふれあい読書講座実施事業が位置づいた。
- ③ 施策の課題(基本計画期間を見据えて、どのような課題を解決していかなければならないか)
- ・学習、スポーツを通じた仲間づくりをすすめる。
 - ・ニーズに合ったスポーツや学習の情報・機会の提供に努める。
 - ・老朽化に伴う施設の改修に取り組む。
 - ・夏休みでの子どもの居場所づくりの実施に取り組む。

施策マネジメントシート2(20年度目標達成度評価)

5 施策の20年度結果に対する審査結果

①政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて…平成21年 7月 3日)

- ・議会から「図書館を子どもの居場所づくりとして夏休みでの自主学習ができるようにして欲しい」との要望があがっているが、図書館の空き部屋等を利用した子どもの居場所づくりなど、地域の実態に沿った取り組みをすすめること。
- ・平成22年度までに予定している生涯学習のまち(都市)宣言については、H21年度に推進会議を立ち上げ、準備をすすめるとのことだが、市民の声を反映しながら取り組むこと。
- ・文化、芸術の分野では、合併後の文化協会の一体化について、文化祭が平成20年度からヴィーブルで一本化して実施でき、体制も強化されている。出品、出展が少なかったとの意見もあったが、申し込み出点数は例年と変わらず予算の減少が影響している部分もある。文化祭は、文化協会の主催で実施され、出展数の限定など運営の自主性を保ちながら引き続き活性化するよう支援していくこと。
- ・また、文化祭の開催にあたっては、菊池恵楓園のコーナー等を設け、園の社会化につなげていくこと。
- ・生涯学習施設の統廃合や適正配置の検討をすすめること。
- ・市のまちづくりに対する生涯学習の貢献度は高く、生涯学習に対する旧町それぞれの市民のこだわりはありと考えられる。事務事業数も多く「しなければならない事業」としての事業実施は限られるかもしれないが、まちづくりには不可欠であり、旧町それぞれの優秀な人材の活かし方、掘り起こし方を合志市として工夫する必要がある。
- ・生涯学習のすすめ方として、旧町それぞれのコミュニティ活動、公民館活動があるが、市としての方向性を定める必要があり、公民館長会議等での提起をはじめ、区長・自治会長との協議を図りながら検討をすすめること。

② 総合政策審議会での指摘事項(平成21年 8月 5日、8月10日、8月26日、9月3日まとめ)

- ・平成22年度の「生涯学習のまち」宣言に向けて、市民の意識の高揚を図る取り組みをすすめる必要がある。
- ・本施策の目的として、学習とスポーツの両方が一緒では大雑把すぎる。せめて学習とスポーツは分けて考えるべきであり、次期第2期基本計画の策定で検討する必要がある。
- ・文化・芸術の指摘が「生涯学習の推進」に入っているのはおかしい。市民の目線からいえば22歴史・伝統・文化の施策に入れるべきである。
- ・関係課に健康づくり推進課や高齢者支援課も加え、社会人の健康づくりのためのスポーツとの連携を図る必要がある。
- ・施策の評価で、経済的な不況が直接指標に影響したと捉えるのは短絡すぎであり、失業による時間の精神的なゆとりがなくなってきたと思うが、もう少し詳細な分析が必要である。

③ 議会の決算審査における指摘事項(平成21年10月 2日)

- ・幼年期からの読書習慣を身に付けさせる施策を充実すべき。
- ・図書館やスポーツ施設を利用したことのない市民をいかに足を向けさせるか検討していただきたい。
- ・ニュースポーツ(ペタンク、カローリング他各種スポーツ)の振興を図るべき。
- ・旧町に囚われず、市全体のスポーツ大会を実施し、旧町間の交流を図りながら生涯学習を推進すべき。
- ・②意図について、学習とスポーツを別けて考えるべき。

6 次年度に向けた取り組み方針

● 政策推進本部 平成22年度合志市経営方針(平成21年10月23日)

- ① ヴィーブルの活用のあり方について検討を進める。
- ② 社会教育施設の統廃合と有効活用の検討をさらに進める。
- ③ 平成22年度の「生涯学習のまち(都市)」宣言に向けて取り組み、市民の意識高揚を図る。

基本事業名	67 学習・スポーツの啓発		基本事業担当課	生涯学習課					
対象	学習やスポーツに取り組んでいない市民		意図	学習やスポーツに取り組むことの必要性を認識できる施設や学習内容を知ることができる					
成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A	学習に取り組んでいないが今後取り組んで見たいと思う市民の割合	目標値				58.0	58.5	59.0	60.0
		実績値			57.5	65.7	61.4		
B	スポーツに取り組んでいないが今後取り組んで見たいと思う市民の割合	目標値				61.8	62.8	63.3	63.8
		実績値			60.8	63.4	63.1		

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

学習について、目標値については、合併後、学習施設については西合志ではコミュニティ単位で取り組まれていたが、身近な学習施設だけでなく、市全域の学習施設の利用により、幅広い取組みにつなげてもらうように啓発していくこと、22年度には60.0%になると設定した。
スポーツについては、目標値については、高齢者向けのスポーツ体験講座を強化、拡充すること、対決型スポーツから軽スポーツに重点が移行してきており、気軽に参加できるようになるので、19、20年度では、1%程度の伸びを期待できる。その後は0.5%程度伸びると考え、22年度では、63.8%と設定した。

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

学習及びスポーツ分野ともに実績値が前年度と比較して低下しているが目標値は上回っている。要因として世界同時不況による社会情勢の変化が考えられる。貢献度が高い事業として、スポーツ体験教室・トレーニングルームインストラクター配置・生涯学習出前講座・図書館祭り・ふれあい読書講座が上げられる。今後は市民大学や内柴旗柔道大会、夏休みの図書館での自主学習スペースの設置により生涯学習の啓発に努める。

基本事業名	68 学習やスポーツへの参加機会の提供		基本事業担当課	生涯学習課					
対象	市民、市外からの通勤・通学者		意図	学習やスポーツに参加する機会がある					
成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A	学習に親しむ機会があると思う市民の割合	目標値				45.3	45.5	45.8	46.0
		実績値			45.1	50.8	47.3		
B	スポーツに親しむ機会があると思う市民の割合	目標値				42.9	43.3	43.6	44.0
		実績値			42.6	46.5	44.3		

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

学習について、目標値については、個々人の状況もあるので、大きくは伸びにくい、身近な学習施設だけでなく、市全域の学習施設の利用や新しい学習メニューの開設により、22年度の目標値を46.0%として設定した。
スポーツについては、新しい学習メニューの開設により参加機会の拡充を図ることで、22年度の目標値を44.0%と設定した。

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

学習及びスポーツ分野ともに実績値が前年度から低下しているが目標値は上回っている。低下の要因として世界同時不況による社会情勢の変化が考えられる。今後は市民大学や内柴旗柔道大会、夏休みの図書館での自主学習スペースの設置により生涯学習の啓発に努める。

基本事業名	69 生涯学習団体やスポーツ団体の育成		基本事業担当課	生涯学習課					
対象	取り組んでいる市民		意図	・学習やスポーツに取り組む仲間ができる ・学習やスポーツリーダーになる					
成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A	活動している生涯学習・スポーツ団体数	目標値				380	384	387	390
		実績値			376	297	338		
B	市内在住のインストラクター数／生涯学習施設で各種講座を担当しているインストラクター数	目標値				81.0	82.0	83.0	84.0
		実績値			79.8	79.8	57.4	57.4	

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

団体数の微増と指導者育成に力点を置いた事業の展開による指導者増加を見込む。

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

活動している生涯学習・スポーツ団体数は前年度に比べ41団体増加している。市内在住のインストラクター数／生涯学習施設で各種講座を担当しているインストラクター数について変化は見られなかった。今後もニュースポーツや新しい生涯学習講座を推進し目標値達成を目指したい。

基本事業名	70 生涯学習・スポーツ施設(環境)の整備		基本事業担当課	生涯学習課					
対象	市民、市外からの通勤・通学者		意図	活動する場がある					
成果指標名	単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A	学習に親しむ施設が整っていると思う市民の割合	目標値				73.9	74.2	74.6	75.0
		実績値			73.6	74.1	74.6		
B	スポーツに親しむ施設が整っていると思う市民の割合	目標値				73.4	74.0	74.5	75.0
		実績値			72.9	74.5	75.1		

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

施設の拡充等困難な状況であり、各種事業の企画などで啓発を行い従来の施設を周知することを条件として目標値を微増で設定した。

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

快適に利用できる各施設の維持管理に努めた。ポイントはA・Bともやや上昇している。今後は合志小跡グラウンドの整備や総合運動公園駐駐車場の整備により親しみやすい施設の整備に努める。